

## 経営講演会

**伝統は革新の連続！  
金箔技術を新化させ時代に合った多方面の製品に展開！**



力タニ産業株式会社  
代表取締役  
**蚊谷 八郎氏**

去る2月3日(金)、かほく市高松産業文化センター多目的ホールを会場として、カタニ産業株式会社 代表取締役の蚊谷八郎氏を講師に迎え、「伝統は革新の連続! 金箔技術を進化させ時代に合った多方面の製品に展開」をテーマとする経営講演会を開催した。

まず、日本経済の状況について、円高、ユーロ安が進み、日本本の製造業は危険な状態にある。こういう時は、気を引き締め、あまり無理をせず、足元を固めたい。ただし、物事を前向きにとらえ、いつも様々な事を考えながら事業を進めていきたい。

次に、カタニ産業の歴史と現状について、明治32年祖父が金箔を扱うカタニ商店を創業した。創業後50年間は頑固一徹な金箔職人であった。父親の時代に入り、当時、金箔は手で叩いて薄く伸ばしていたが、手で叩く作業の機械化を考え、ドイツから機械を導入した。しかし、金箔はやわらかすぎて、薄い箔ができなかつた。そこで、アルミを使つてみると、材質的にうまくいき、アルミ箔を作つた。アルミ箔はコストが安く、機械化で大量生産し、金や銀の色をつけて京都の西陣の帯につかつても

らった。昭和36年、当時25ミクロン（現在は4ミクロン程度）の薄いポリエスチルのフィルムを輸入し、それにアルミニ箔を張つて色を付け、京都に持つて行き、細かく裁し、それを撚糸した金糸・銀糸を製造販売した。その後、フルムに金・アルミを付着させ真空蒸着技術を開発した。真の中で、金は1600度、アミは800度に溶かし気化させそれを転写フィルムに蒸着するもので、それが現在の主力品になっている。

商品構成には4本柱がある1つ目は、金糸・銀糸で売上20%、2つ目は転写箔で売上50%、3つ目は産業資材のコストの安い代替品として用途が拡がりを見せている野である。3つ目は、分野である。3つ目は、産業資材売上の20%、4つ目は当社の1つの分野で売上の10%である。世界的な写真フィルムメーカーのコダックが倒産したことを見ると、1つの分野に集中することは危険を伴う。新規分野増やし、転写箔のウエイトを



し下げたい。次に、海外進出について、海外の日系メーカーが大事なお客様さんで、円高による生産部門の海外移転でいつもしょに来ないかとの誘いの電話が多い。当社はマレーシアに進出して25年、ようやくその国になじんだと感じている。海外進出は単なる工賃を追い求めではダメで、最近もバングラデッシュへの進出の話があり断つて、いる。工賃を追い求めるところは、アフリカまでいかなければならないかもしれない。工賃以外の何か特徴を持たないと絶対ダメだと思う。

次に、今後の展開について、国内に6つ、海外に4つの工場があり、10箇所もよく管理しているなど人によくいわれる。管理方法として、できるだけ手を抜こうとしている。持論として、ロス論の考え方がある。各拠点に社長がいないなどのくらいロスができるか。ロス率を自分なりに考えて、ここは15%の現場かな、などと考えて、それ以下になると現場の責任かなと考える。このような考え方をすると気が楽になる。

来期は63期目になる。期首には必ず社長メッセージを出しており、3月中に63期の基本方針を作成し、4月に幹部を集め発表、その後はまかせる。

域連携アクティブラボ「大学・地域連携アクリティブフォーラム」（大学コンソーシアム石川主催）が本多の森ホール（金沢）で行われました。県内の大学など高等教育機関が県内の地域と連携して、地域の抱える課題の解決を図る取組の成果報告（21件）を大学生が行いました。その結果、私どもゼミとかほく市商工会が連携した「道の駅高松の活性化策」は、幸運にも最優秀賞をいたしました。この取組の概要を報告させていただくことを通じて、ご支援いただきました皆様への御礼に代えさせたいだけれど幸運なことに、高松の駅の駅員の方々が、この賞を受賞する際の写真を撮影して下さったので、それを掲載させていただきます。



図1 最優委賞の受賞

1. 道の駅診断

徴を明らかにするため、立地条件の異なる道の駅（中心市街地、観光地、中心市街地と観光地の併用）での調査を比較した結果、有料道路沿いの道の駅の利用目的は「休憩」であるため、購入品目は「飲み物」または「なし」がきわめて多いことがわかりました。併せて、「日本海に沈む夕日」という景観を十分活かしていないという課題



図2 高松の夕日ヤリ一

道の駅を利用した「人と人とのつながり」の再生

道の駅を利用した  
「つながり」の再生

道の駅の魅力の一つに「一人と人とのつながり」を再生する機能があると考えられます(図3)。道の駅を中心に、地場産物を生産する農家、それを活かした加工品を開発する大学、加工品の製造に関わる製造・加工業者、加工品の流通・販売を請け負う小売店、店舗の開設や宅配を行うJA、お金がまわる仕組みを整える商工会、そして消費者が一体となつた「おらが道の駅」の応援体制は、人と人との交流を促すものと考えられます。



図3.道の駅活性化による  
「人と人のつながり」の模式図

商工会・看護大学の連携による  
「道の駅高松」活性化への挑戦

石川県立看護大学看護学部 埠花 淑

垣花  
涉